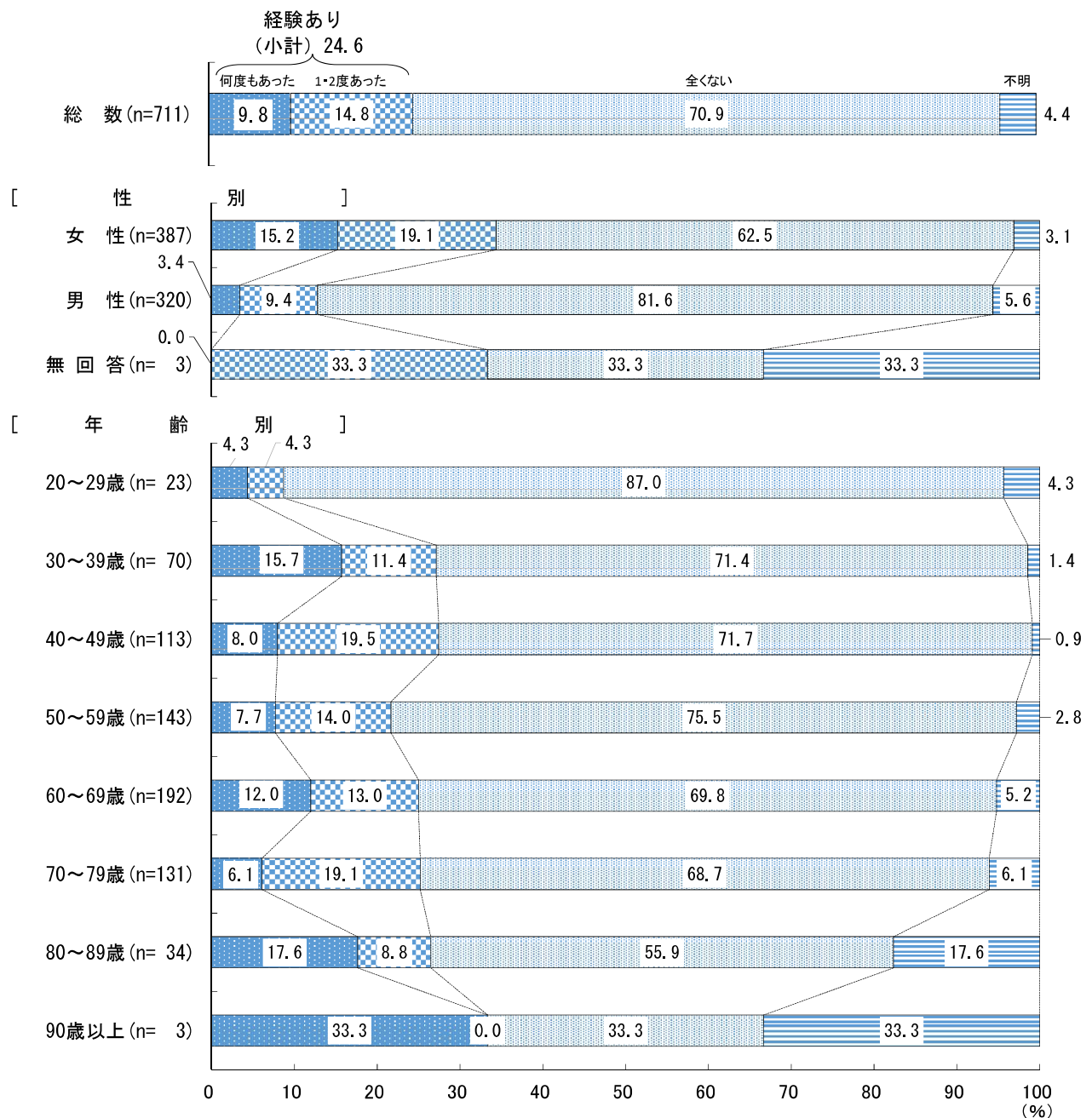


6 配偶者やパートナーからの暴力

問13 結婚している、または結婚したことのある方にお聞きします。あなたはこれまでに、配偶者（事実婚や別居中を含む）から、次のような暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）をされたことはありますか。アからエのそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

これまでに結婚したことのある人に、「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のそれぞれの行為について、配偶者から被害を受けたことがあるか聞いたところ、いずれかの被害を受けた経験が「何度もあった」「1・2度あった」をあわせた『経験あり』は24.6%となっている。性別にみると、『経験あり』と回答したのは、女性が多くなっている。

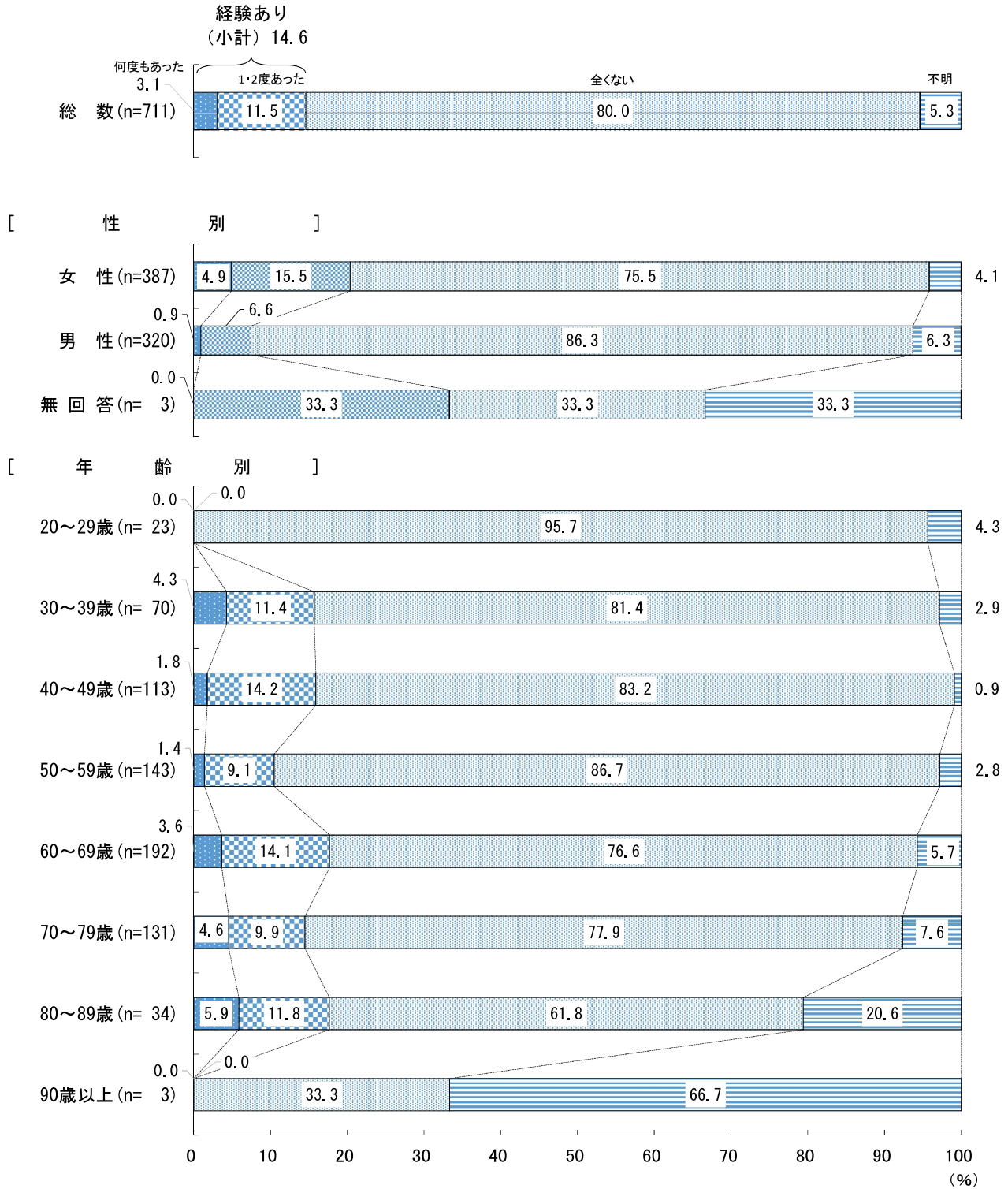
図13-1 配偶者やパートナーからの暴力の被害経験



ア 身体的暴行

これまでに配偶者から身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）の経験があるかどうか聞いたところ、『経験あり』は14.6%となっている。

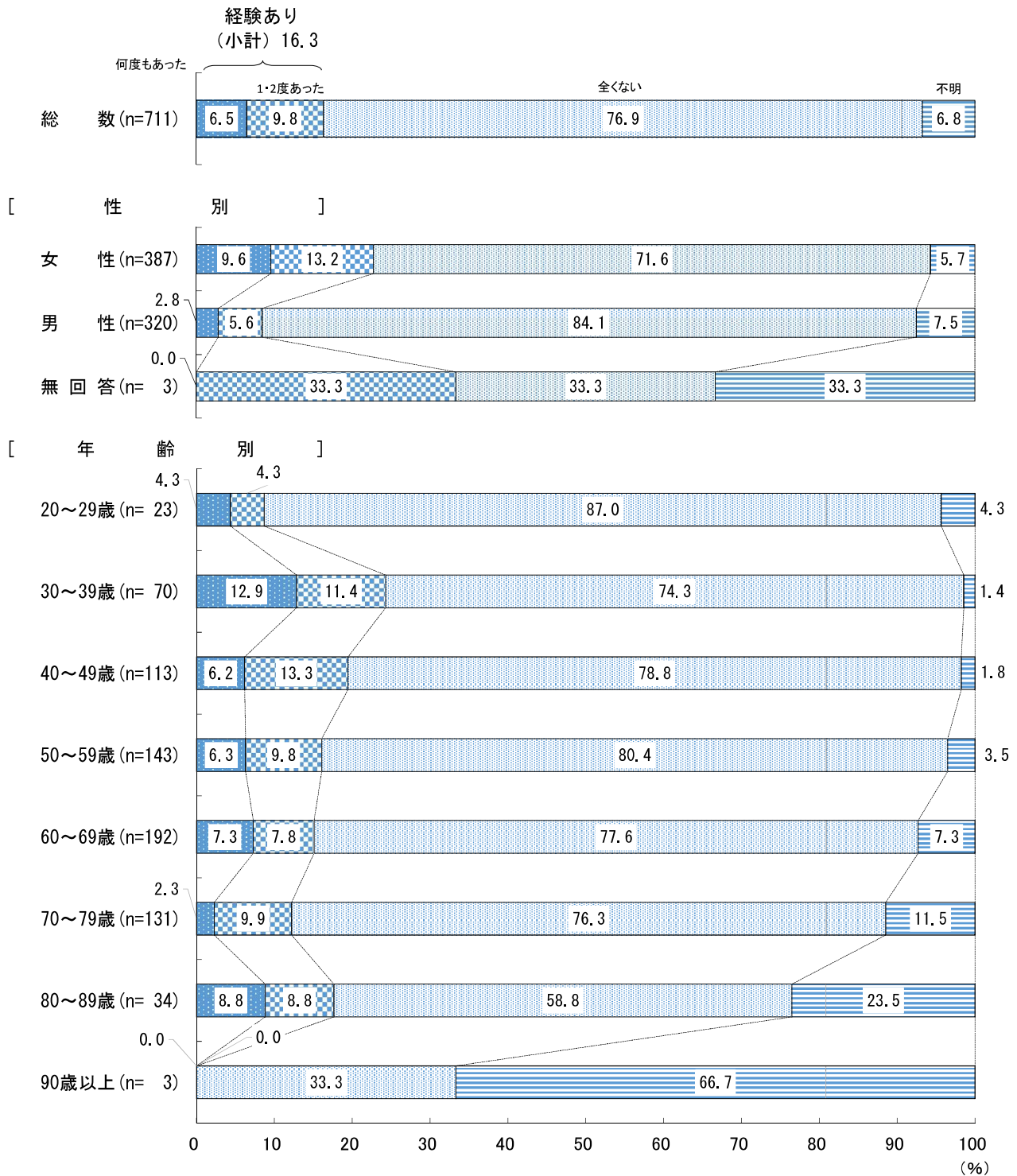
図13-2 身体的暴行の被害経験



イ 心理的攻撃

これまでに配偶者から心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）を受けた経験があるかどうか聞いたところ、『経験あり』は16.3%となっている。

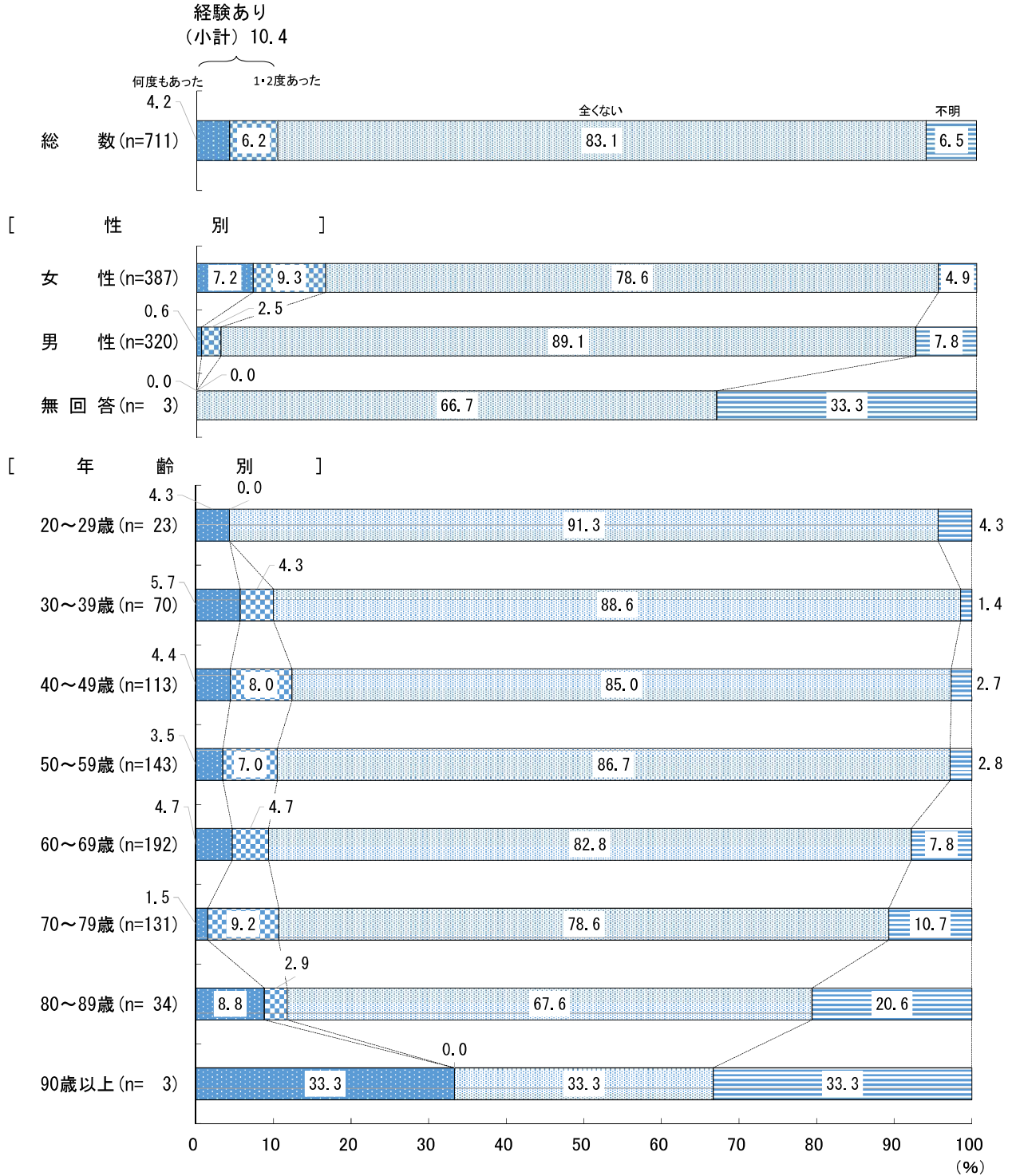
図13-3 心理的攻撃の被害経験



ウ 経済的圧迫

これまでに配偶者から経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）を受けた経験があるかどうか聞いたところ、『経験あり』は10.4%となっている。

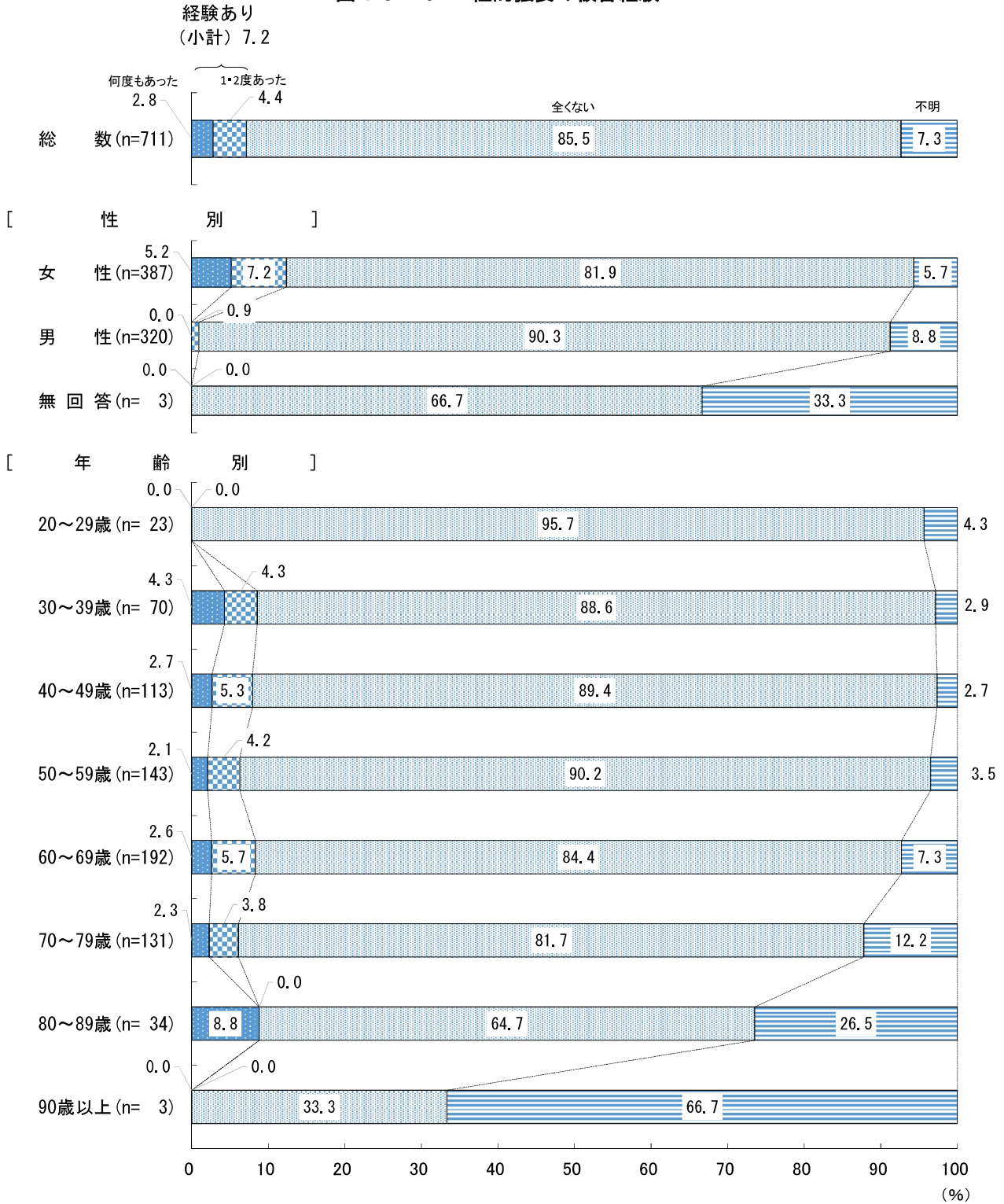
図13-4 経済的圧迫の被害経験



エ 性的強要

これまでに配偶者から性的強要（例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）を受けた経験があるかどうか聞いたところ、『経験あり』は7.2%となっている。

図 1 3 - 5 性的強要の被害経験

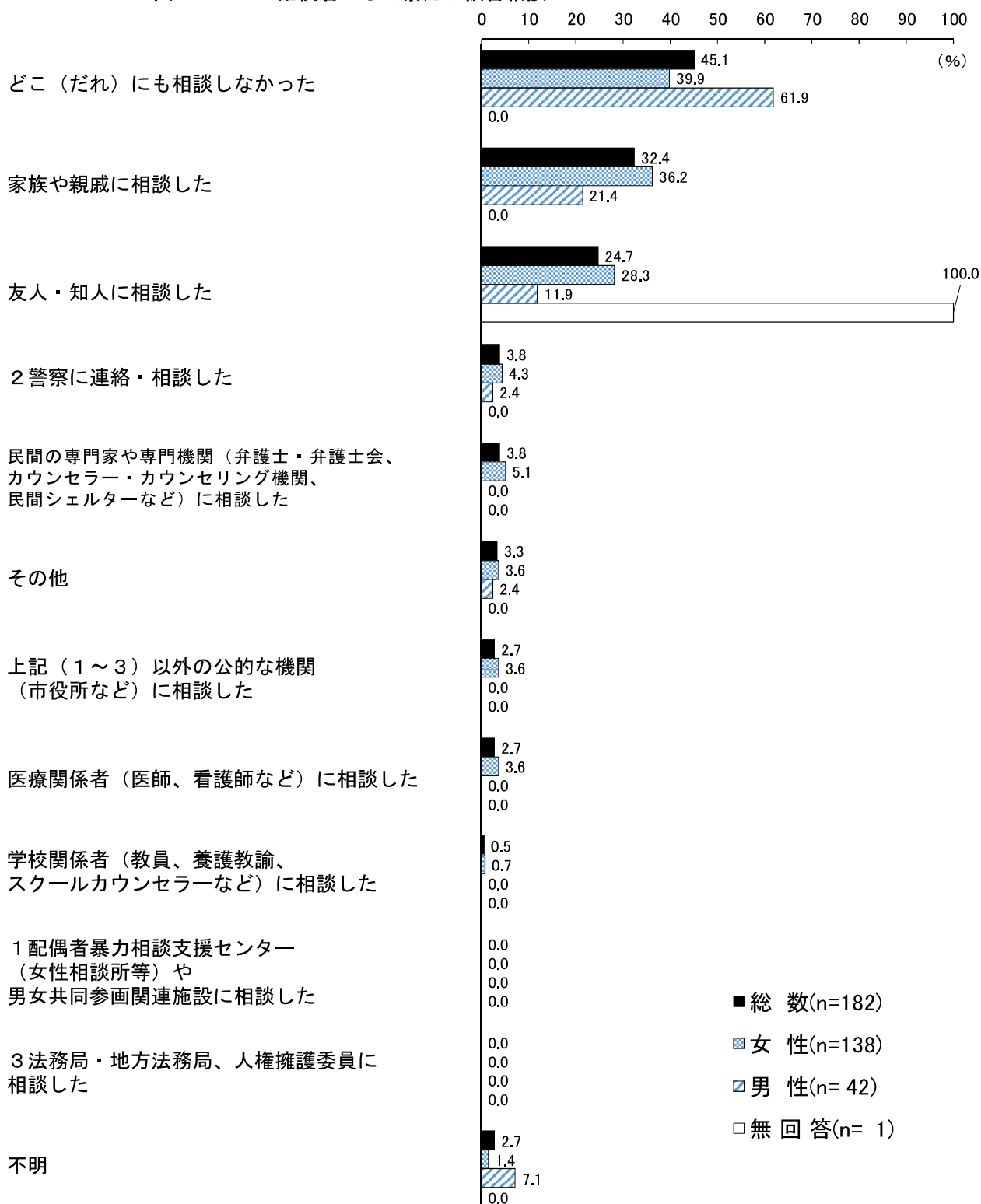


問14 問13において、1または2に○をつけた方にお聞きします。あなたは配偶者(事実婚や別居中を含む)から受けた行為について、どこ(だれ)かに相談しましたか。あてはまるものを1～10の中からいくつでも選んで○をつけてください。どこ(だれ)にも相談しなかった場合は11に○をつけてください。

「どこ(だれ)にも相談しなかった」が45.1%で最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」が32.4%、「友人・知人に相談した」が24.7%となっている。性別にみると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答したのは、男性が多くなっている。

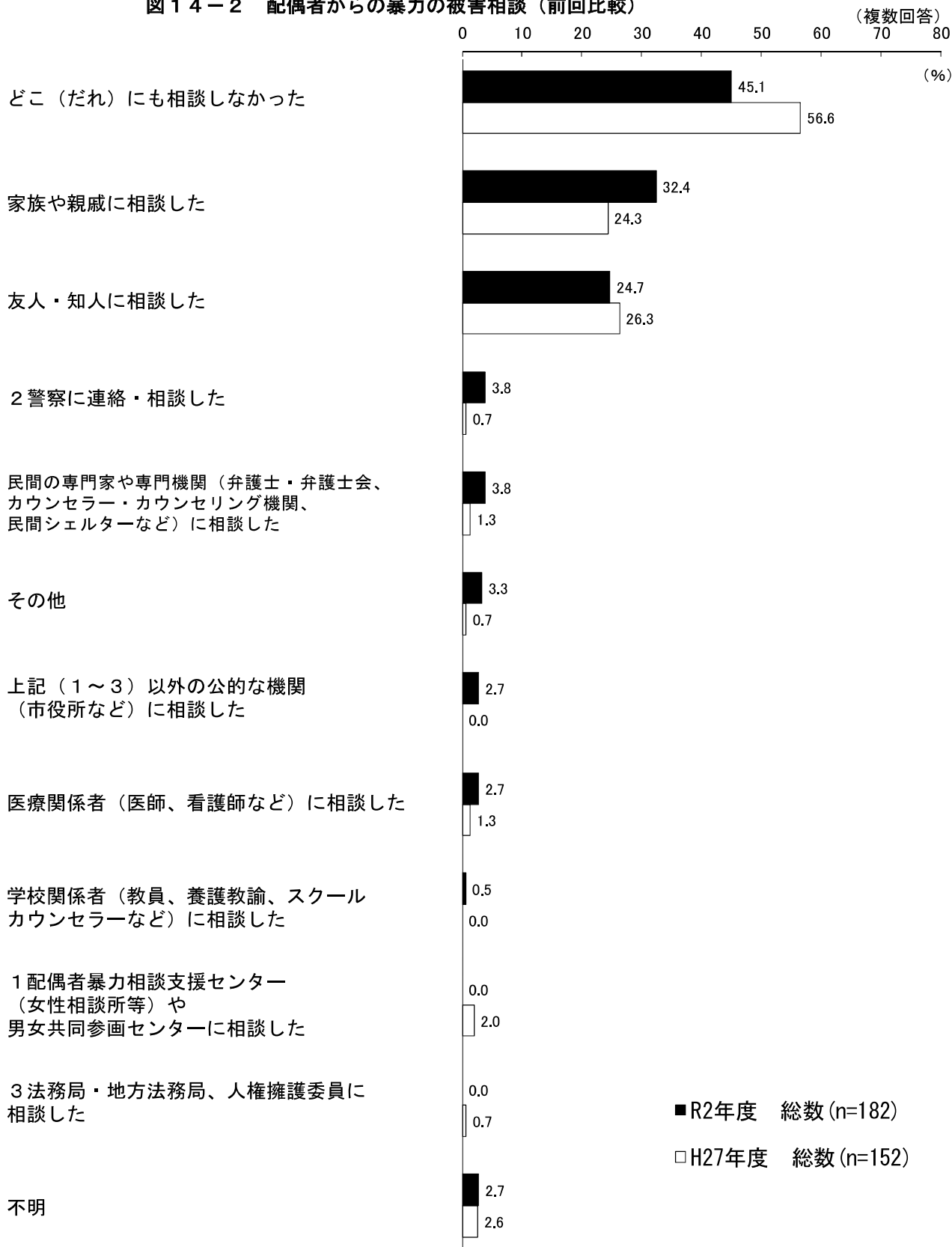
図14-1 配偶者からの暴力の被害相談

(複数回答)



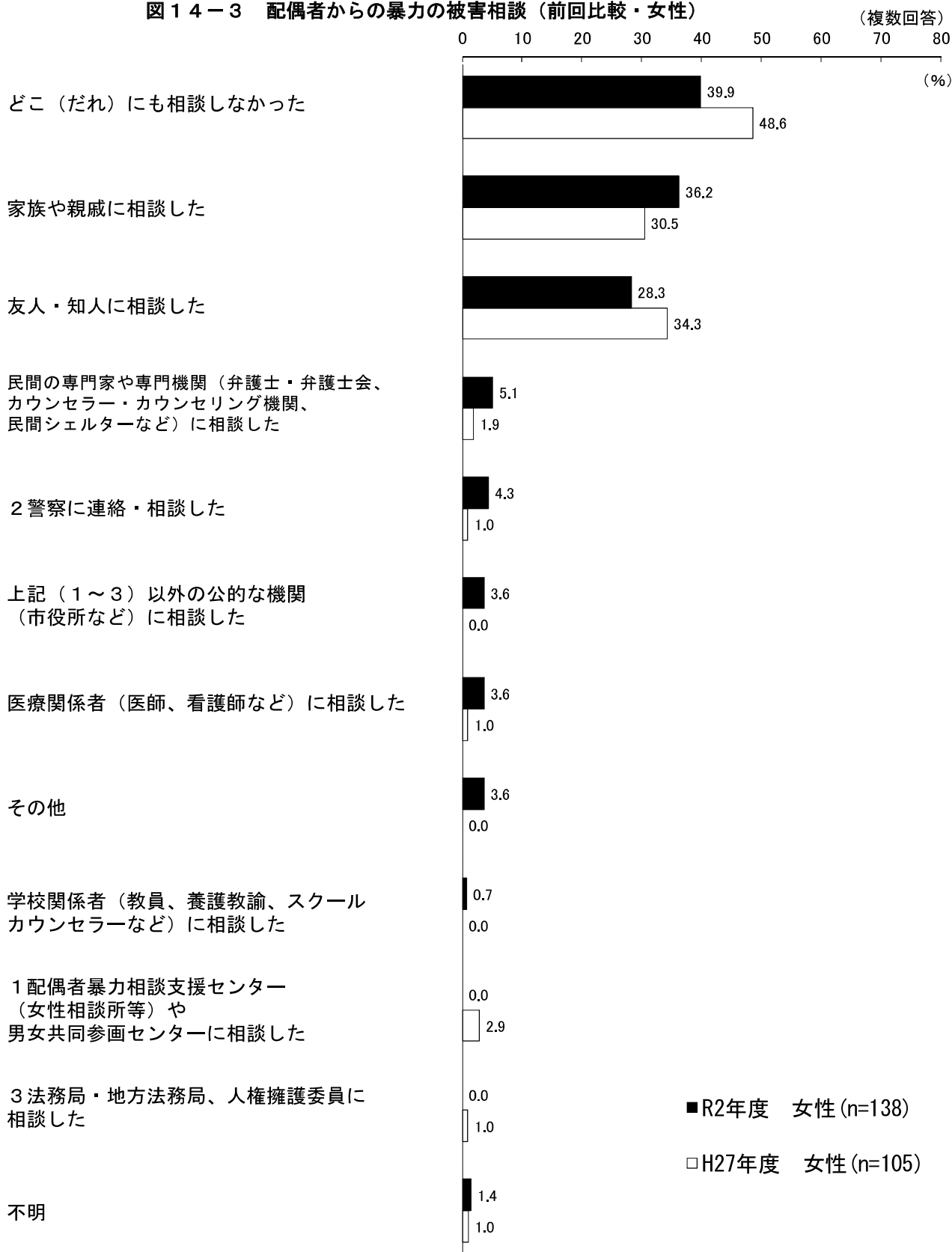
前回調査と比較すると、前回2番目に多かった「友人・知人に相談した」と前回3番目に多かった「家族や親戚に相談した」の順番が入れ替わっている。また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が11.5ポイント低下し、「家族や親戚に相談した」が8.1ポイント増加している。

図14-2 配偶者からの暴力の被害相談（前回比較）



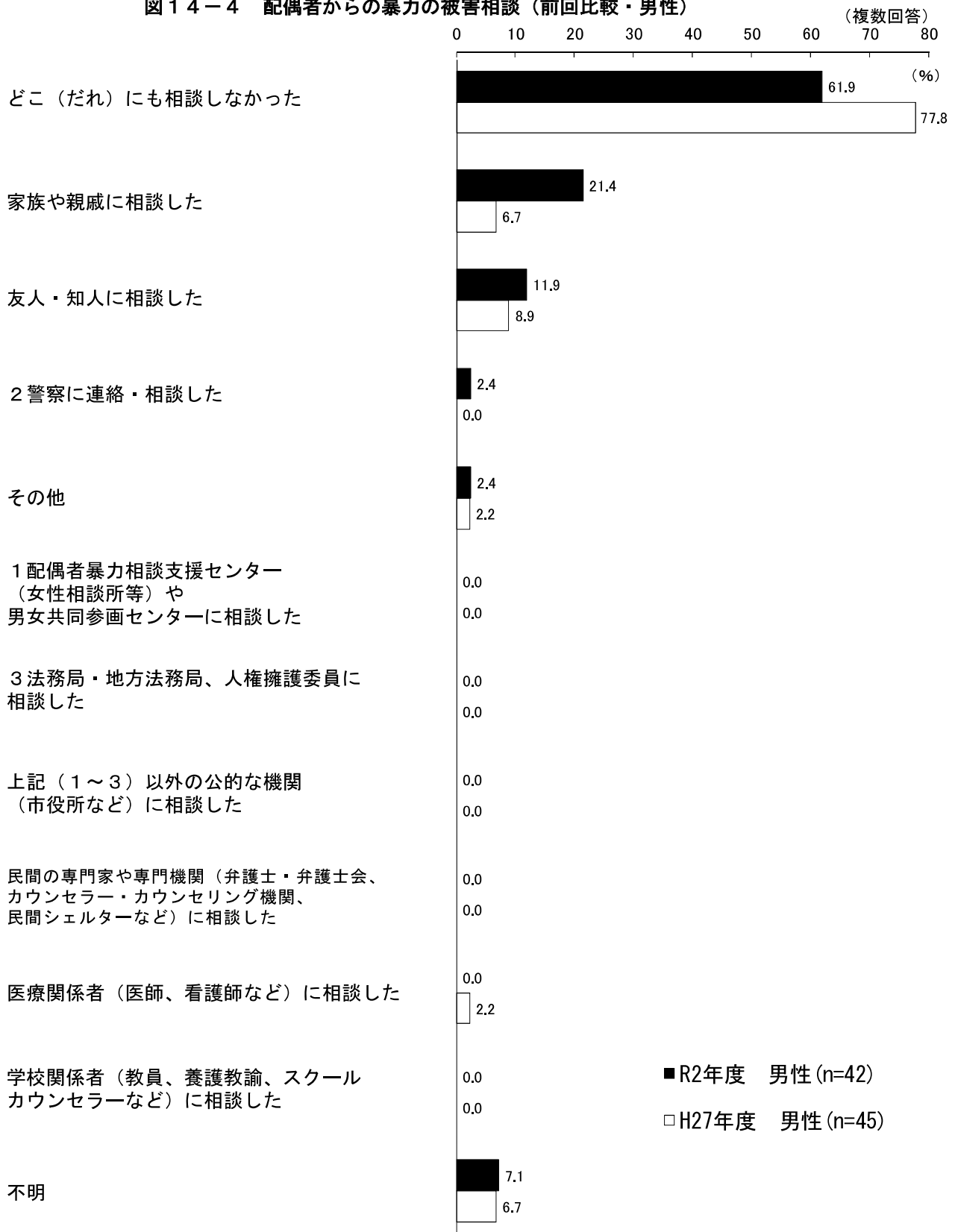
前回調査と比較すると、前回2番目に多かった「友人・知人に相談した」と前回3番目に多かった「家族や親戚に相談した」の順番が入れ替わっている。

図14-3 配偶者からの暴力の被害相談（前回比較・女性）



前回調査と比較すると、前回2番目に多かった「友人・知人に相談した」と前回3番目に多かった「家族や親戚に相談した」の順番が入れ替わっている。

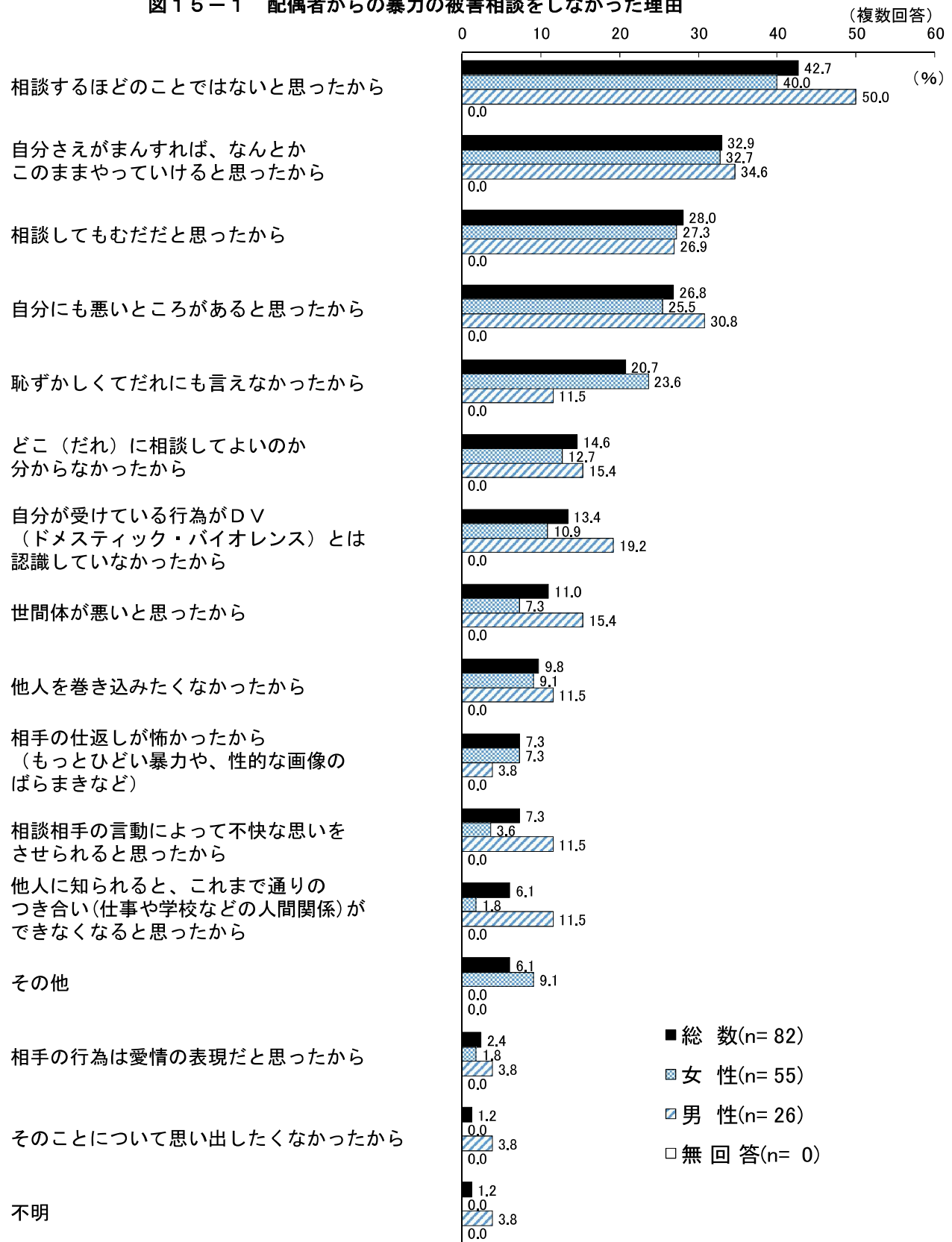
図14-4 配偶者からの暴力の被害相談（前回比較・男性）



問15 問14で「11 どこ(だれ)にも相談しなかった」に○をつけた方にお尋ねします。相談しなかったのはどうしてですか。あてはまる番号をいくつでも選んで○をつけてください。

「相談するほどのことではないと思ったから」が42.7%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が32.9%、相談してもむだだと思ったから」が28%となっている。性別にみると、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が半数を占めている。

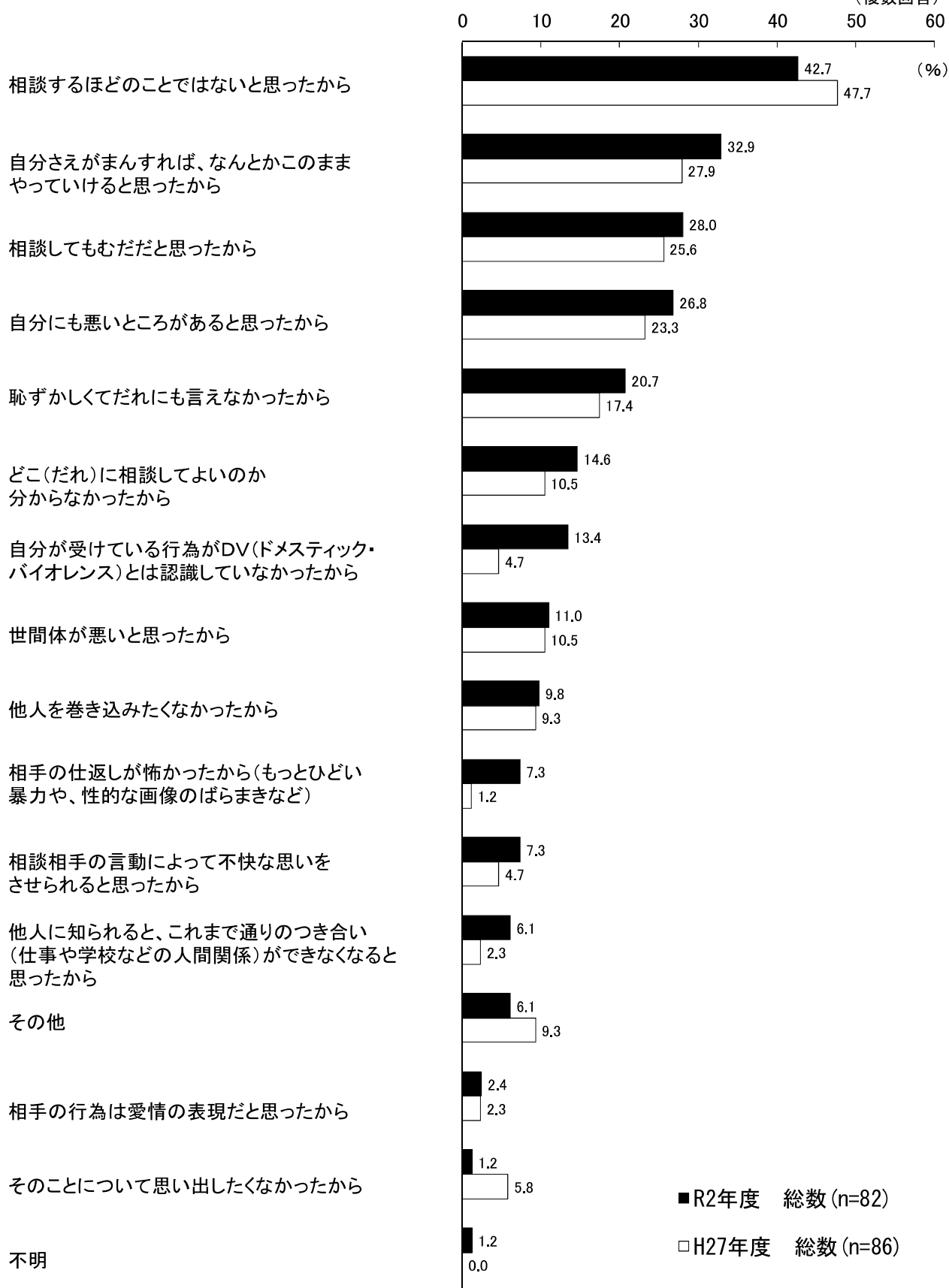
図15-1 配偶者からの暴力の被害相談をしなかった理由



前回調査とほぼ同様の傾向となっている。

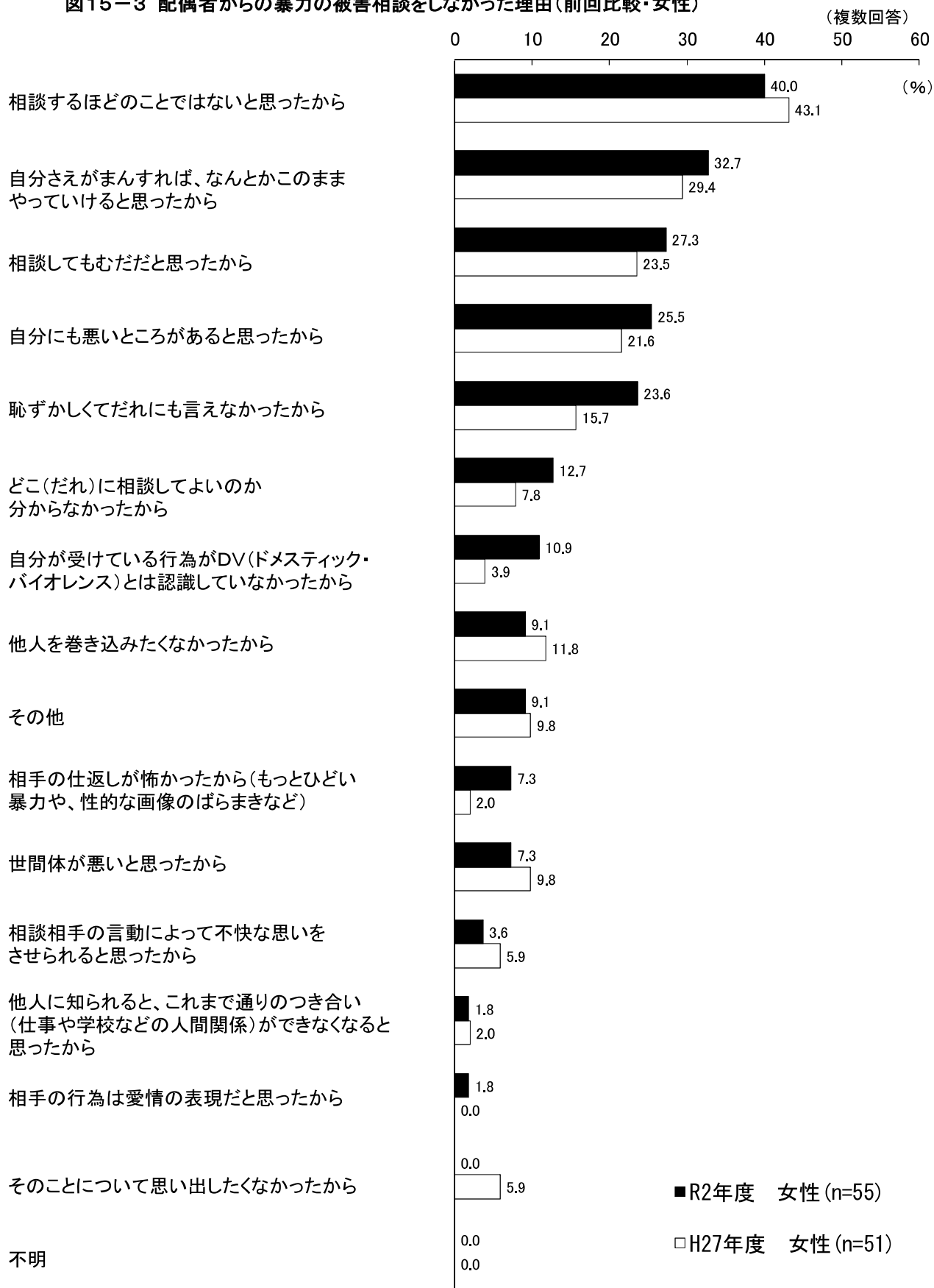
図15-2 配偶者からの暴力の被害相談をしなかった理由(前回比較)

(複数回答)



前回調査とほぼ同様の傾向となっている。

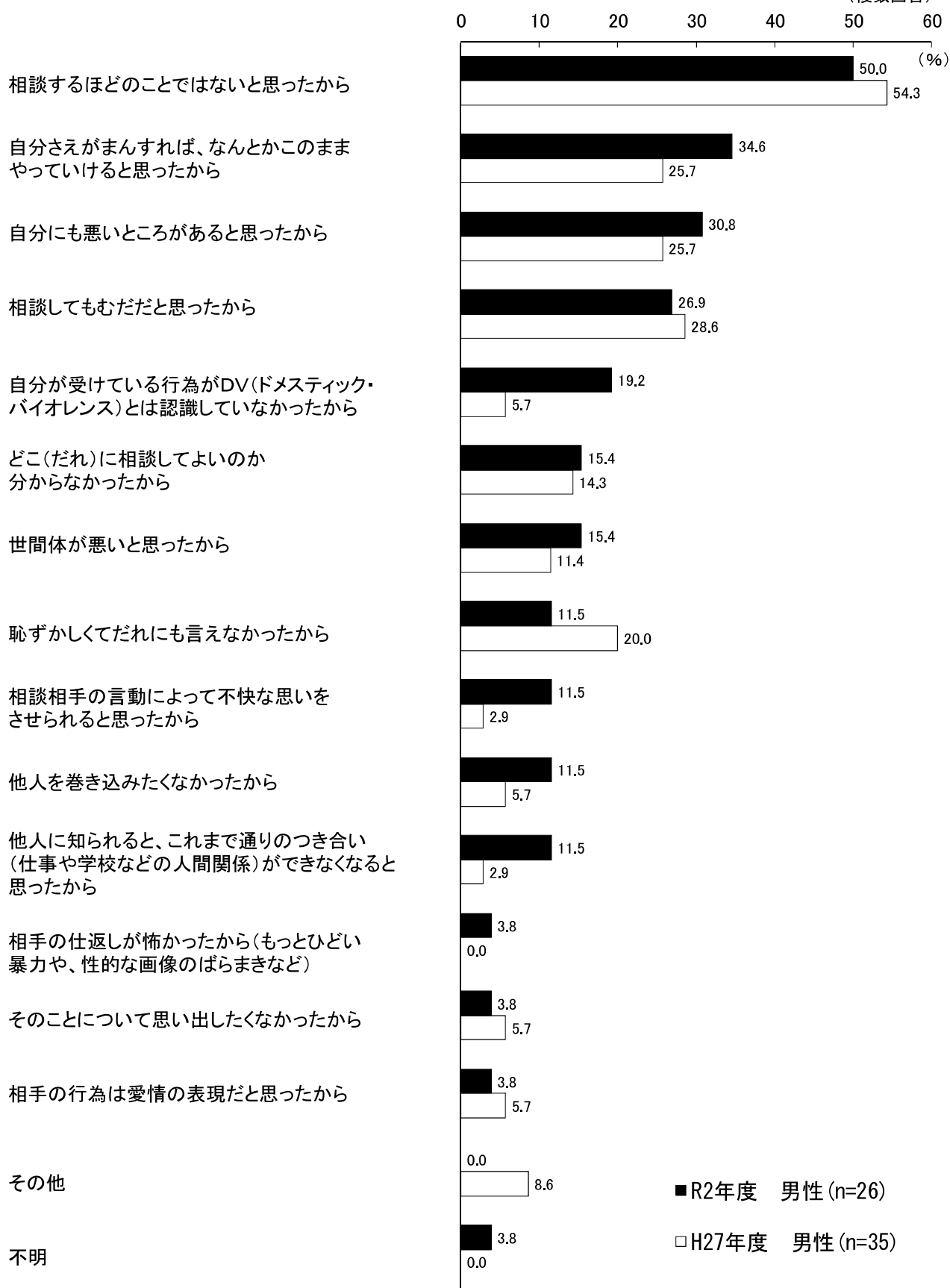
図15-3 配偶者からの暴力の被害相談をしなかった理由(前回比較・女性)



前回調査とほぼ同様の傾向となっている。

図15-4 配偶者からの暴力の被害相談をしなかった理由(前回比較・男性)

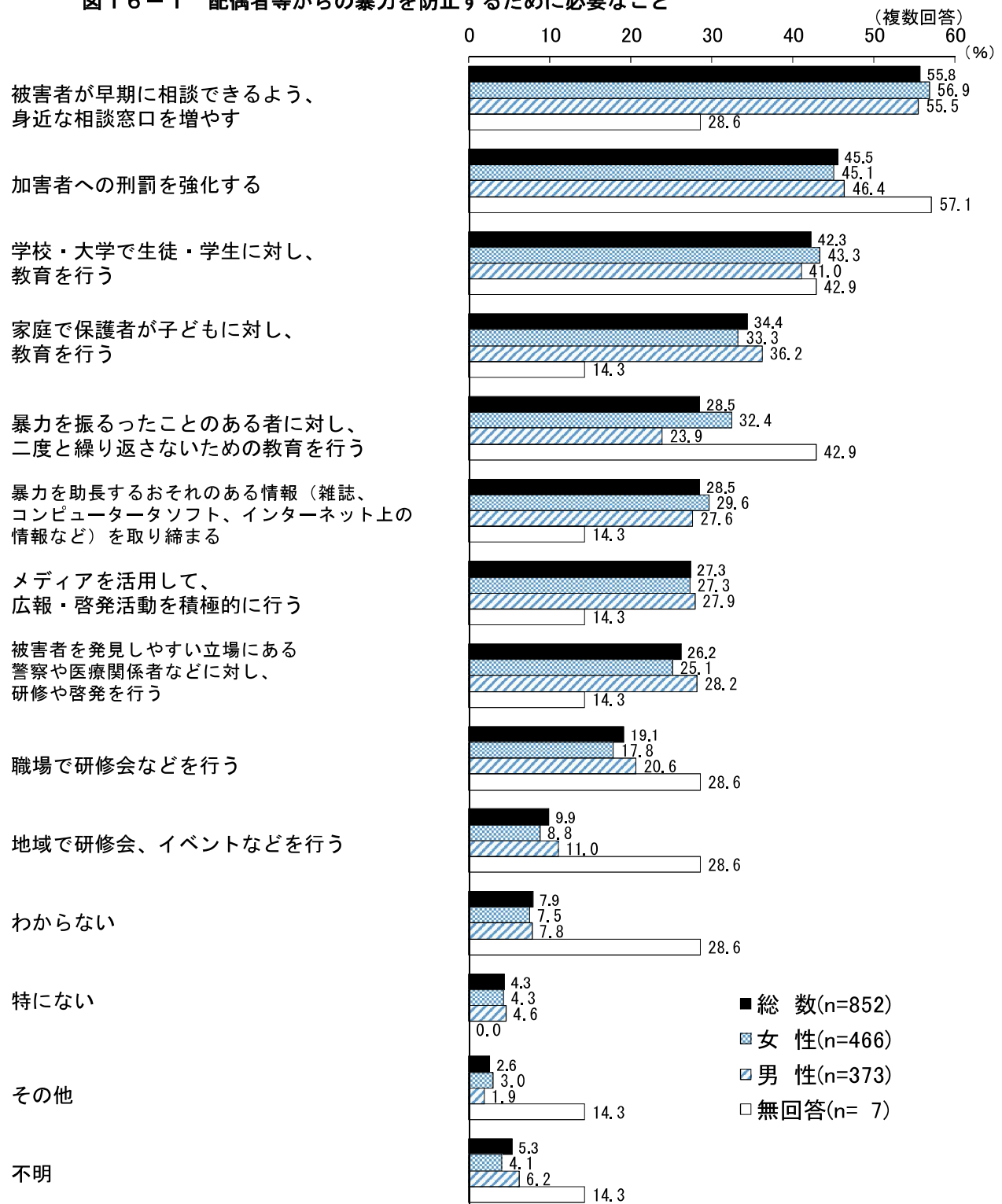
(複数回答)



問16 あなたは、配偶者や交際相手からの暴力、性犯罪、ストーカー行為、セクシャル・ハラスメントなどを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを1～11の中からいくつでも選んで○をつけてください。特にない場合は12に○をつけてください。わからない場合は13に○をつけてください。

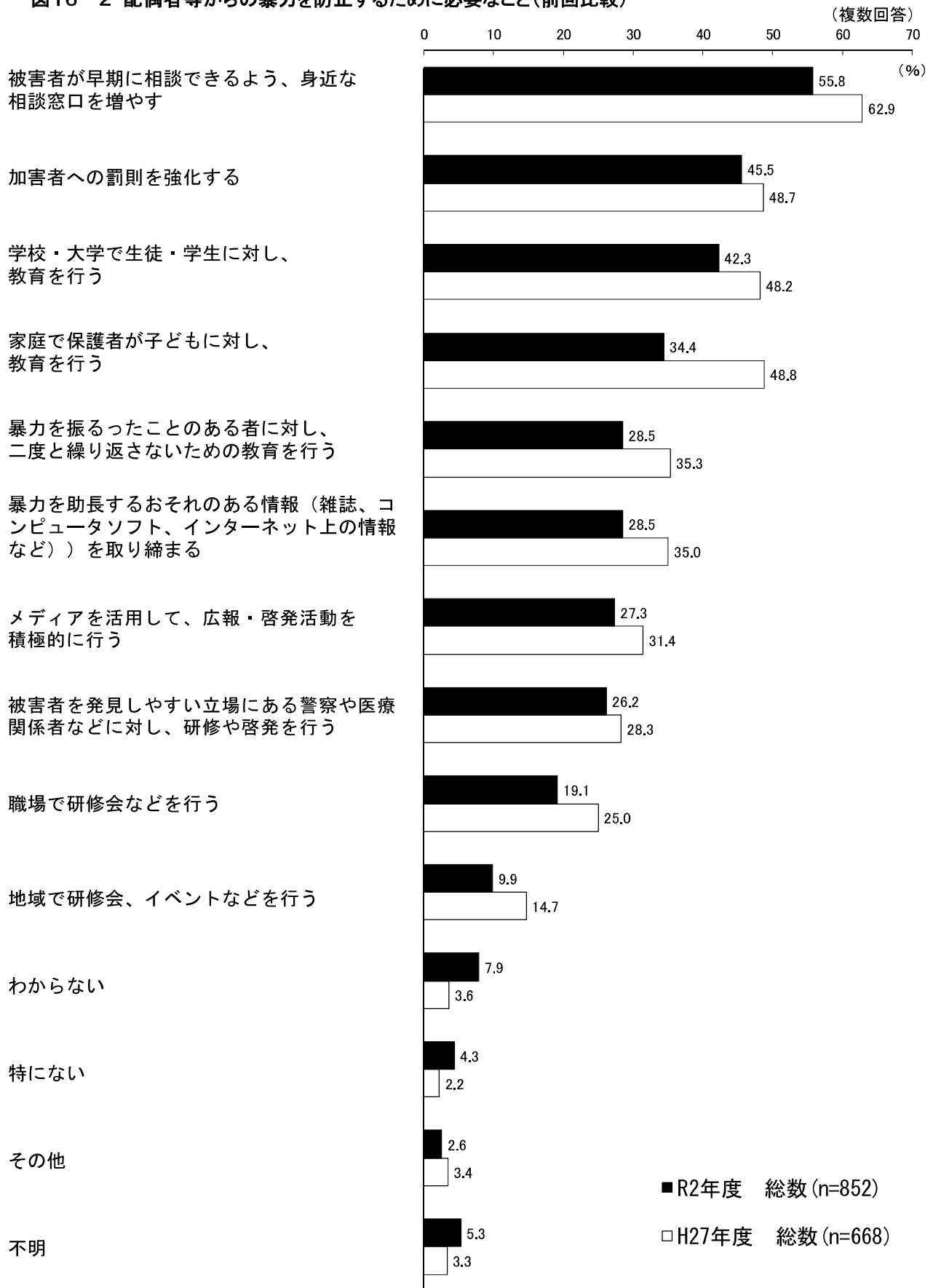
「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が55.8%で最も多く、次いで「加害者への刑罰を強化する」が45.5%、「学校・大学で生徒・学生に対し、教育を行う」が42.3%となっている。

図16-1 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと



前回調査と比較すると、前回3番目に多かった「加害者への罰則を強化する」が、今回2番目に多くなっている。

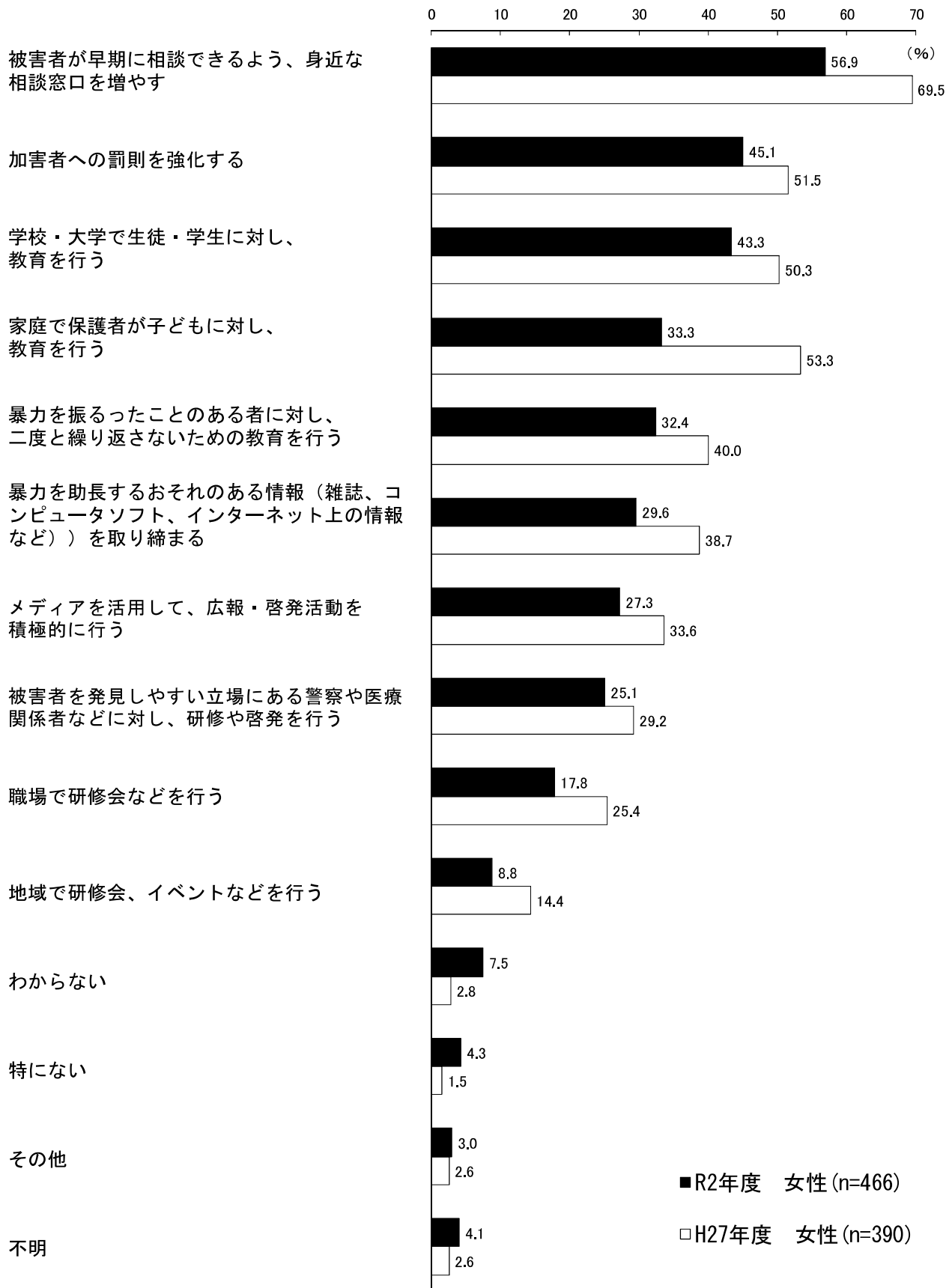
図16-2 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと(前回比較)



前回調査と比較すると、前回3番目に多かった「加害者への罰則を強化する」が、今回2番目に多くなっている。

図16-3 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと(前回比較・女性)

(複数回答)



前回調査と比較すると、前回3番目に多かった「加害者への罰則を強化する」が、今回2番目に多くなっている。

図16-4 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと(前回比較・男性)

(複数回答)

